

2022/7/25

(うと Q 世話し A interest to the people who had lived 10k years ago 1 万年前の人々への興味) 書庫版



初めに。

「本文は日本語なのに何で英文の題名をつけるのですか？」

というご質問を戴きましたので冒頭ながらこの場をお借りして少々ご説明を。

「外国の人にも読んで欲しいから」

がその理由です。全文英文/日本語文コンパチにすればいいのですが、面倒なのと力量不足で英文仕様に出来ない乍、目に留まり易い様にせめてタイトルだけでも英文にしよう（英文を入れておこう）と思ったからです。

さてここからが本題。

まず1万年前の人々はそれ迄にどんな発明の恩恵を受け、どんな事までできる様になっていたのか？が最初に明らかにしておきたい事だと思います。

思うに現代人は今迄の発明の恩恵を受けそれを享受して人類全体としては底上げされている一方、発明元である原始人、古代人はその恩恵を受ける事はなかったものの何もない中で発明をしてきた訳ですから恐らく現代人よりその先端は遥かに優れていたと想像されます。PCにしる、車にしる、テレビにしる、これらは全て道具ですが、現代人はその道具を使っているいろいろなことを成し遂げている一方、原始人や古代人は道具のない時代に道具そのものを発明してきた訳ですから、その観察力、発想力、整理力、応用力等様々な面で現代人とは比べ物にならないくらい潜在的なパワーが上だったのではないのでしょうか。

実は自分が原始人や古代人に着目した元々のきっかけは「人類史上最後尾で最も優れている筈の現代人に余りの情けなさ」を感じ、その裏返しで大元はどうだったのか？に興味を持ったからです。

「情けなさ」というのは、現代人の目を覆うばかりのパワーの劣化もさる事ながら、その埋め合わせでもするかのようなメディアによる「カリスマ、達人、天才」の大安売りに対する完全な嫌悪感と、一応世間一般からのお墨付きがありはするものの其れとてよくよく観察し

てみれば、原始や古代の名も知れぬ大粒の天才達の目的は「仲間の為」だったのに対し、現代の天才群は「まずは我が名。そしてお金」の輩でしかなさそうな「その小粒さ」に対する「残念至極感」の事です。

余談が過ぎました。話を元に戻しましょう。

此処から想像上の1万年前です。

発掘資料から石の鏃（やじり）、石斧、石包丁はあった様です。要するに今あるものを用途（達成したい目的）に合わせて加工するという発明。

その具体化が自分の手足以外の能力の獲得である「道具」の発明。

又、植物等から超出した絵具という道具を用いて描かれた壁画も発見されておりますから抽象化という発明もされていた様です。抽象化と言えば建造物の遺跡も見つかっている事から数学、天文学、時間概念等の高度な抽象概念の原型も生まれていたのかもしれませんが。当然ながら言語はあったでしょうが、それを記録する文字があったかどうか？文字は絵画の後の産物だと思われまますから。

でもまだ肝心なものが何か欠けている様な。

さて？